

## 基準 A 地域貢献

#### IV. 大学が独自に設定した基準による自己評価

##### 基準 A. 地域貢献

##### A-1. 地域社会への貢献

##### A-1-① 大学と自治体の連携

##### A-1-② 大学と企業の連携

##### A-1-③ 大学の産官学連携

##### (1) A-1 の自己判定

基準項目 A-1 を満たしている。

##### (2) A-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

##### A-1-① 大学と自治体の連携

八戸学院大学（以下、本学）は、建学の精神にある「現代社会が要請する有為の人材を育成すること」を実現するため、開学以来、教育理念・教育目的に基づき、学部・学科の特性を活かした教育活動を展開してきた。

そのような中で、平成 22(2010)年度から八戸市を始めとする近隣 7 自治体と連携協力協定を締結し、様々な地域貢献活動に取り組んできた。特に、平成 26(2014)年度に八戸学院大学・八戸学院短期大学地域連携研究センター（現附置機関名：八戸学院地域連携研究センター。以下、地域連携研究センター）を設立以降は、多様な専門性と人的・物的資源を活用して連携協定を結び、積極的に地域に貢献するとともに、地域をキャンパスとした教育活動を展開している。

本学と自治体との連携協定は、表 A-1-1 のとおりである。

表 A-1-1 本学と自治体との連携協定締結一覧（令和 2(2020)年 5 月 1 日現在）

市町村	締結年月日	協定名称
八戸市	平成 22(2010)年 9 月 17 日	八戸大学及び八戸市の農業経営者育成に関する協定
階上町	平成 25(2013)年 3 月 19 日	連携協力に関する協定（包括連携／大学）
八戸市	平成 25(2013)年 4 月 1 日	八戸学院大学と八戸市との産業振興連携協力に関する協定
八戸市	平成 25(2013)年 4 月 10 日	連携協力に関する協定（スポーツ振興連携／大学）
新郷村	平成 26(2014)年 3 月 27 日	連携協力に関する協定（包括連携／大学・短大）
階上町	平成 27(2015)年 3 月 26 日	連携協力に関する協定（包括連携／大学・短大）
五戸町	平成 27(2015)年 4 月 16 日	連携協力に関する協定（包括連携／大学・短大）
八戸市	平成 27(2015)年 12 月 24 日	八戸学院大学、八戸学院短期大学及び八戸市における健康福祉連携協力に関する協定
南部町	平成 28(2016)年 3 月 23 日	連携協力に関する協定（包括連携／大学・短大）
三沢市	平成 30(2018)年 3 月 22 日	地方創生に係る包括連携協力に関する協定
三戸町	令和元(2019)年 8 月 20 日	包括連携協力に関する協定

- 【資料 A-1-1】 八戸大学及び八戸市の農業経営者育成に関する協定
- 【資料 A-1-2】 連携協力に関する協定（八戸市）
- 【資料 A-1-3】 八戸学院大学と八戸市との産業振興連携協力に関する協定
- 【資料 A-1-4】 連携協力に関する協定（八戸市／スポーツ振興連携）
- 【資料 A-1-5】 連携協力に関する協定（新郷村）
- 【資料 A-1-6】 連携協力に関する協定（階上町）
- 【資料 A-1-7】 連携協力に関する協定（五戸町）
- 【資料 A-1-8】 八戸学院大学、八戸学院短期大学及び八戸市における健康福祉連携協力に関する協定
- 【資料 A-1-9】 連携協力に関する協定（南部町）
- 【資料 A-1-10】 地方創生に係る包括連携協力に関する協定（三沢市）
- 【資料 A-1-11】 包括連携協力に関する協定（三戸町）

また、令和元(2019)年度の活動状況は、次のとおりである。

## 1. 八戸市

産業振興連携協力協定に基づき、令和元(2019)年度は、八戸市委託事業 e コマース人材育成講座開催特別セミナーとネットショップ入門講座を開講し、起業・創業および EC スキル習得を希望する社会人 19 人が受講した。

また、長根屋内スケート場産学官スポーツ振興連携事業委託により、「子どもからお年寄りまで、スポーツを軸とした健康的なコミュニティ形成」を目指し、長根屋内スケート場（以下、YS アリーナ八戸）を拠点に様々な事業を実施した。令和元(2019)年度は、YS アリーナのサテライトキャンパスで「健康運動プログラム（延べ 14 人）」、「女性のための健康ミニセミナー（4 人）」、「レクリエーションゲーム体験講座（延べ 12 人）」、「高齢者ダンス教室（延べ 16 人）」、「ジュニアサッカー教室（延べ 11 人）」などを実施した。

【資料 A-1-12】 令和元年度八戸市 e コマース人材育成事業委託業務完了報告書

【資料 A-1-13】 長根屋内スケート場産学官スポーツ振興連携事業委託実施状況報告書

## 2. 階上町

「相互に保有するまちづくり、健康づくりおよびスポーツに関する情報、ノウハウ等を用いて協力し、生涯学習の推進と地域住民の健康増進、スポーツの活性化による社会発展に貢献すること」を目的とした連携協力協定に基づき、令和元(2019)年度は、「第 21 回はしかみ臥牛山まつり」、「第 33 回はしかみいちご煮祭り」、「第 41 回階上町文化祭」のステージイベントに本学の学生サークルが参加した。また、「第 49 回階上町防犯・交通安全少年球技大会」の運営補助として本学の硬式野球部（試合での塁審、野球教室での指導として計 8 人）、男子・女子バスケットボール部（審判補助、ミニゲーム審判、オフィシャル指導として計 8 人）、男子サッカー部の部員（サッカー教室の指導として 4 人）が参加した。

【資料 A-1-14】 第 49 回 階上町防犯・交通安全少年球技大会への学生の派遣について（依頼）

### 3. 三戸町

「地域人材の育成、地場産業の振興、地域住民の健康増進およびスポーツの振興による社会発展に貢献すること」を目的とした連携協力協定に基づき、令和元(2019)年度は、「令和元年度三戸町農林商工まつり（11月30日）」に本学の男子ラグビー部の部員（6人）が参加し、来場者を対象にラグビー体験会を実施した。

【資料 A-1-15】 令和元年度三戸町農林商工まつりへの学生の派遣について（依頼）

#### A-1-② 大学と企業の連携

平成24(2012)年度から本学および地域連携研究センターが8社の地域企業等と連携協力協定を締結し、様々な地域貢献活動を行っている。

本学および地域連携研究センターと企業との連携協定は、表 A-1-2 のとおりである。

表 A-1-2 本学および地域連携研究センターと企業との連携協定締結一覧

（令和2(2020)年5月1日現在）

企業名	締結年月日	協定名称
株式会社みちのく銀行	平成24(2012)年9月28日	連携協力協定（地域経済連携／大学）
デイサービスカローレ	平成26(2014)年4月4日	介護予防共同研究に関する覚書 （人間健康学部／現学部名：健康医療学部）
株式会社東北産業	平成27(2015)年4月7日	連携協力に関する協定 （包括連携／地域連携研究センター）
東北アイスホッケークラブ株式会社	平成27(2015)年5月8日	連携協力に関する協定 （包括連携／地域連携研究センター）
株式会社デーリー東北新聞社	平成27(2015)年8月5日	連携協力に関する協定 （包括連携／地域連携研究センター）
三八五流通グループ	平成28(2016)年4月14日	八戸学院大学・八戸学院短期大学と三八五流通グループとの健康連携協力に関する協定
イー・エフ・エデュケーション・ファースト・ジャパン株式会社	平成28(2016)年4月28日	八戸学院大学・八戸学院短期大学・八戸学院光星高等学校・八戸学院野辺地西高等学校とイー・エフ・エデュケーション・ファースト・ジャパン株式会社との海外留学連携協力に関する協定
青い森信用金庫	平成29(2017)年8月25日	八戸学院大学と青い森信用金庫との連携協力協定（産業振興連携）

【資料 A-1-16】 連携協力協定（株式会社みちのく銀行）

【資料 A-1-17】 介護予防共同研究に関する覚書（デイサービスカローレ）

【資料 A-1-18】 連携協力に関する協定（株式会社東北産業）

- 【資料 A-1-19】 連携協力に関する協定（東北アイスホッケークラブ株式会社）
- 【資料 A-1-20】 連携協力に関する協定（株式会社デーリー東北新聞社）
- 【資料 A-1-21】 八戸学院大学・八戸学院短期大学と三八五流通グループとの健康連携協力に関する協定
- 【資料 A-1-22】 八戸学院大学・八戸学院短期大学・八戸学院光星高等学校・八戸学院野辺地西高等学校とイー・エフ・エデュケーション・ファースト・ジャパン株式会社との海外留学連携協力に関する協定
- 【資料 A-1-23】 八戸学院大学と青い森信用金庫との連携協力協定

また、令和元(2019)年度の活動状況は、次のとおりである。

### 1. 株式会社みちのく銀行

「それぞれが保有する研究シーズや企業ニーズに関する情報、ノウハウ等を用いて相互に協力し、地域経営の活性化と社会の発展に貢献すること」を目的とした連携協力協定に基づき、令和元(2019)年度は、「第1回八戸地域クラウド交流会」の運営に協力した。

- 【資料 A-1-24】 「第1回八戸地域クラウド交流会の開催」について

### 2. 株式会社デーリー東北新聞社

「それぞれが保有する設備、情報、ネットワーク等を用いて相互に協力し、地域社会の発展に貢献すること」を目的とした包括的連携協力協定に基づき、令和元(2019)年度は、「第6回ビブリオバトル in 八戸」、「第5回デーリー東北交流カップ U-12 女子8人制サッカー大会」、「ジュニアサッカー教室（全5回）」を行った。各イベントには学生が参加するとともに、本学の教職員もイベントの企画や当日の運営進行などに協力し、イベントの継続や活性化に寄与した。

- 【資料 A-1-25】 第6回ビブリオバトル in 八戸
- 【資料 A-1-26】 「第5回デーリー東北交流カップ U-12 女子8人制サッカー大会」実施要項
- 【資料 A-1-27】 「ジュニアサッカー教室（全5回）」

### 3. 三八五流通グループ

三八五流通グループと「相互に緊密な連携協力と情報の共有を図り、三八五流通グループ従業員の健康管理および地域の健康増進に資すること」を目的とした連携協力協定に基づき、令和元(2019)年度は、三八五流通グループの女性従業員を対象にした「健康ミニセミナー」や従業員を対象とした「第4回健康セミナー」を行った。また、三八五流通グループ従業員を対象とした健康調査を健康医療学部の教員と学生が行った。

- 【資料 A-1-28】 女性のための健康ミニセミナー
- 【資料 A-1-29】 第4回健康セミナープレスリリース
- 【資料 A-1-30】 地域連携研究センター地域連携研究センター「三八五流通グループ連携「健康度測定」を実施しました(7/18)」(2019年7月23日)  
<https://research.hachinohe-u.ac.jp/news/topics/post-2803/>

### A-1-③ 大学の産官学連携

平成 19(2007)年度から大学は地域の高等教育機関や自治体等と連携協力協定を結び、地域の活性化を図ることを目的とした事業を行っている。

令和元(2019)年度の活動状況は、次のとおりである。

#### 1. 八戸版地域シンクタンク

平成 19(2007)年 10 月 26 日に締結された「八戸工業大学、八戸大学（現:八戸学院大学）及び八戸工業高等専門学校との学術交流に関する協定」第 3 条「協力事項」の「地域の活性化に寄与する活動」に基づき、「八戸版地域シンクタンク」が結成された。「八戸版地域シンクタンク」は、上記 3 校の学長・校長および八戸市長で構成される「八戸市都市研究検討会」が決定した調査研究テーマの調査実行機関として位置付けられている。この「八戸版地域シンクタンク」は、テーマごとに編成されるプロジェクトチームという形式を採っている。

令和元(2019)年度の研究テーマは「若者の地域定着と U・I・J ターン可能なまちづくりに関する研究—スポーツと多文化の視点から—」とした。各高等教育機関の現状や将来展望を踏まえて、各校と八戸市の役割分担を整理し、体制強化について調査研究と提言を行った。

【資料 A-1-31】若者の地域定着と U・I・J ターン可能なまちづくりに関する研究—スポーツと多文化の視点から—

#### 2. 八戸産学官連携推進会議「産学官連携による未来創造中長期計画」

平成 30(2018)年 7 月 24 日に「三者が相互の密接な連携と協力により、産学官一体となり特色ある地方創生に取り組むことで、地域の課題に迅速かつ適切に対応し、地域社会の持続的発展と地域の活性化を図ること」を目的として「八戸市、八戸商工会議所及び八戸市高等教育連携機関との包括的な連携に関する協定」を締結した。

令和元(2019)年度は、地域の持続的発展と地域の活性化を図ることを目的に、産学官の各機関が地域の現状や課題を共有し、将来ビジョンを掲げ、その実現に向けて連携して取り組むために「産学官連携による未来創造中長期計画」を策定した。

【資料 A-1-32】八戸産学官連携推進会議（八戸市・八戸商工会議所・八戸市高等教育連携機関）「産学官連携による八戸未来創造中長期計画」令和 2 年 3 月

#### (3) A-1 の改善・向上方策（将来計画）

地域連携研究センターの人的資源やネットワークを活用して、連携協定を締結した各自自治体や企業とともに地域振興に関する教育研究と実践を継続して行う。

### A-2. 地域に密着した教育活動と人材育成

#### A-2-① 三八地域をフィールドとした教育活動

#### A-2-② 地域発展に資する人材育成

#### A-2-③ スポーツを通じた地域貢献

#### A-2-④ その他の地域貢献

(1) A-2 の自己判定

基準項目 A-2 を満たしている。

(2) A-2 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

A-2-① 三八地域をフィールドとした教育活動

地域経済・文化等に密着し、地域をキャンパスとした教育活動を展開し、地域住民・教育機関・自治体と連携したフィールドワーク・公開講座等を実施している。

令和元(2019)年度の主な活動は、次のとおりである。

1. 階上町フィールドワーク

平成 27(2015)年度から健康医療学部人間健康学科では学生と教員が共同で、階上岳をフィールドに豊かな自然のもとでのウォーキングが心身に及ぼす影響について検証を行っている。自然の中のウォーキングを習慣化することにより、心の健康づくりのみならず、生活習慣病（メタボリックシンドローム）の予防、運動器症候群（ロコモティブシンドローム）の予防等が期待される。引き続きフィールドワークを行い、地域住民の健康増進活動に繋げる。

【資料 A-2-1】 第 21 回はしかみ臥牛山まつり

2. 地域農業ビジネス演習

ビジネス学部（現：地域経営学部）では、日本農業の担い手の一つとして注目されている企業の活動を行う「農企業」に着目し、その多義にわたる経営体の活動を概観し、地域農業の担い手像を考えることを目的に、青森県南部地域における「農企業」に赴き、実際に地域での活動のヒアリング（フィールドワーク）を行った。

また、本学と青森県営農大学校との連携協定に基づき、令和元(2019)年度は、「ICT を活用した農業とアグリビジネス」をテーマに、八戸市、南部町へ学生が赴き、フィールドワークやレポート作成を行った。

【資料 A-2-2】 地域農業ビジネス演習シラバス

【資料 A-2-3】 地域農業ビジネス演習資料

3. 八戸学院大学健康医療学部公開講座

健康医療学部では、生涯学習の一環として、地域住民を対象にして健康に対する学習機会を提供することを目的に公開講座を開催している。令和元(2019)年度は「今日から実践！こころとからだの健康づくり」をテーマに、健康医療学部の教員による講演を予定したが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、開催中止とした。

【資料 A-2-4】 公開講座「今日から実践！心とからだの健康づくり」チラシ

4. 八戸学院大学健康医療学部健康調査

平成 23(2011)年度から、健康医療学部では“短命県返上”と住民の健康意識の向上を目的とした健康調査を三八地域（八戸市、階上町、南部町、新郷村）および岩手県洋野町の中高年を対象に行っている。健康調査では主に体組成、骨密度、握力、血圧、簡易ヘモグロ

ビン濃度等の項目について、教員の指導の下、学生が主体となり測定を行っている。健康調査で得られたデータは、住民の将来の健康づくりや体力づくりの策定に対する基礎的資料として自治体に提供されている。本調査は学生のフィールドワーク活動の一環でもあり、講義で学んだ内容を基に、来場者へ結果をフィードバックする実践力やコミュニケーション能力を養う場となっている。令和元(2019)年度は、洋野町・八戸市・階上町で合計7日間の日程で行い、教員・学生は延べ223人、地域住民は延べ914人が参加した。

**【資料 A-2-5】 令和元年度健康調査**

## 5. 地域における看護提供（まちの保健室）

平成25(2013)年度から、八戸市に開設された青森県看護協会が主催の「まちの保健室」において、健康医療学部看護学科（以下、看護学科）の教員が地域住民の健康増進と健康教育のために健康相談や血圧測定などを毎年度行い、地域住民が健康に暮らしていけるよう支援をしている。また、令和元(2019)年度には看護学科保健師養成課程の学生8人が地域保健活動（公衆衛生看護活動）の実習生として参加した。

**【資料 A-2-6】 令和元(2019)年度青森県看護協会はっち「まちの保健室」実施報告**

## 6. 地域医療施設への貢献

看護学科では、学生が近隣医療施設のボランティア活動に参加することをとおして、多様な世代や保健医療従事者とのコミュニケーション能力および汎用性を高める実践教育を展開している。

平成27(2015)年度から、看護学科の学生と教員は八戸市立市民病院の小児科病棟や周産期センターに入院している子どもとその家族に向け、毎年度クリスマスカードを作成している。また、有志学生が病院行事のクリスマス会に着ぐるみで参加し、入院中の子ども達の気分転換と療養環境の向上の機会を提供している。

**【資料 A-2-7】 2019年クリスマスカード制作**

## 7. 国際交流をとおしての地域貢献・教育活動

本学では、JICE（日本国際交流センター）と連携し、在住外国人や地域住民との交流活動を行っている。学生や教職員が八戸市および周辺町村での国際交流イベントに積極的に参加し、八戸市が毎年度主催する「国際交流フェスタ」ではスタッフとして出展ブースの企画・運営に関わっている。令和元(2019)年度では、本学の外国人留学生がそれぞれの出身国（フィリピン、中国）のブース運営や文化紹介イベントに参加し、市民に異文化理解を深める機会を提供した。

また、本学の外国人留学生は、八戸市国際交流協会が主催する防災教室や日本の文化や暮らしを紹介する「ジャパン・デー・イン・八戸」で体験学習をするなど、国際交流イベントの実施に協力するとともに、地元市民と交流して相互理解を深めている。

**【資料 A-2-8】 JICE プログラム概要、国際交流フェスタ**

**【資料 A-2-9】 「外国人のための防災教室」 ちらし**

**【資料 A-2-10】 「ジャパン・デー・イン・八戸」 ちらし**

## 8. 八戸市アートの学び事業

本学では、八戸市新美術館における「アートの学び」事業を具現化するため、「アート教育」、「アートビジネス」、「コミュニティ活性化」をキーワードに大学の資産を活用した、さまざまな活動を行っている。令和元(2019)年7月から幼児や小学校低学年の子どもを対象に、創造と表現の楽しみ方を学べる「現代芸術教室アートイズ」を合計5回開催し、延べ227人が参加した。また、11月からアート分野における起業や商品開発の可能性を探ることを目的として、「アートビジネスシンポジウム」が開催され合計77人が参加した。さらに、12月には子育て世代の方々を対象に、気軽にアートに触れることでストレス発散やリフレッシュの機会を得る目的で「アートワークカフェ（大人の塗り絵）」を開催し、10人が参加した。

【資料 A-2-11】 令和元年度 八戸市アートの学び事業実施報告書

### A-2-② 地域発展に資する人材育成

本学では、地域経済・文化に密着し、地域をキャンパスとした教育活動を展開するとともに、地域社会の発展に寄与することができる人材育成を行っている。

令和元(2019)年度の主な活動は、次のとおりである。

【資料 A-2-12】 八戸学院地域連携研究センター規程

#### 1. 健康・医療関連セミナーの地域への公開

本学では、毎年度、宣誓式特別記念講演および地域医療セミナーを開催し、学生、保護者、地域住民、地域の医療関係者や高校生に公開している。令和元(2019)年度は、「看護師という生き方—看護師は生きてきたように看護する—」と題した講演会と「青森県における感染症発症の動向と予防」と題した地域医療セミナーを開催した。

【資料 A-2-13】 第3回八戸学院大学健康医療学部看護学科宣誓式特別記念講演

【資料 A-2-14】 令和元年度地域医療セミナー

#### 2. みちのく英語応用サミット

本学の英語担当教員が中心となり、英語教育に関する教授法などの事例報告やカンファレンスを通じて、地域の英語教育を向上させることを目的とした「みちのく英語応用サミット」を開催している。令和元(2019)年度は、本学を会場に、ALT・外国人教師を含む25人が参加して行われた。

【資料 A-2-15】 第6回みちのく英語応用サミット

#### 3. あおもりツーリズム創発塾

地域連携研究センターは、青森県が「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録を目指していることを踏まえ、八戸圏域における是川石器時代遺跡を代表とする遺跡や歴史・文化等を活用したツーリズムの可能性を検討するワークショップを行っている。令和元(2019)年度は、YSアリーナ八戸などで行い、6人が参加した。

【資料 A-2-16】 あおもりツーリズム創発塾業務実績

#### 4. 防災士養成講座

地域連携研究センターは、地域社会において自助共助を通じた災害対応をするためのリーダーを養成し、災害に強い街づくりに貢献することを目的として、防災士養成講座を開催している。令和元(2019)年度は、計4回開講し、延べ178人が受講し、157人が合格した。

##### 【資料 A-2-17】 防災士養成講座

#### A-2-③ スポーツを通じた地域貢献

スポーツ・その他を通じて、地域の活性化や地域貢献に資することを目的として、学生が主体となって、地域の子どもたちを対象としたスポーツ教室などを開催している。

令和元(2019)年度の主な活動は、次のとおりである。

##### 1. ジュニアサッカー教室

平成26(2014)年度から八戸市におけるサッカーの振興、地域の活性化、青少年の健全育成を目的として、幼児や児童を対象とした「ジュニアサッカー教室」を定期的で開催し、ジュニアサッカーの競技力向上、ジュニアサッカー人口の拡大に寄与している。令和元(2019)年度は5月31日、8月30日、9月6日、10月18日、2月7日の合計5回行った。

##### 【資料 A-2-18】 ジュニアサッカー教室チラシ

##### 2. かけっこ教室

本学陸上競技部は、毎年度、一般社団法人ライズはしかみ(総合型地域スポーツクラブ)が主催する「かけっこ教室」において、地域の小学生・中学生を対象に、速く走るための講習およびラダーやハードルを使用した練習方法の紹介を行っている。令和元(2019)年度は、12月17日に行った。

##### 【資料 A-2-19】 かけっこ教室開催要項

##### 3. 小学生野球教室

令和元(2019)年7月、「市内の小学生を対象に楽しく野球の基本動作を学びながら技術向上を図ることを目的」としたエスプロモ株式会社が主催する「小学生野球教室」に、本学硬式野球部が講師として招かれ、指導を行った。

##### 【資料 A-2-20】 小学生野球教室開催要項

##### 4. はちがくサマーフェス

令和元(2019)年7月、本学キャンパス内に人工芝グラウンド2面が完成したことを記念し、幼児・小学生(男女)を対象に「サッカー&タグラグビー教室」を開催した。本学女子サッカー部および男子ラグビー部が基本的な動作やプレイを指導した。

##### 【資料 A-2-21】 はちがくサマーフェス『サッカー&タグラグビー教室』開催要項

##### 5. ラグビー教室

令和元(2019)年度、本学男女ラグビー部では、八戸圏域市町村内の保育園児や小学生、

中学生を対象に、放課後を楽しく過ごす場の提供や運動能力・基礎体力の向上を図ることを目的として、「エンジョイ！タグラグビー教室」を開催した。この教室は、八戸市学生まちづくり助成金を活用している。

【資料 A-2-22】男女ラグビー部 地域貢献活動

【資料 A-2-23】学生まちづくり助成金実績報告書（八戸市）

#### A-2-④ その他の地域貢献

##### 1. 八戸水産高等学校マグロ延縄漁業実習応援プロジェクト

本学では、令和元(2019)年度より、青森県内唯一の水産高校である八戸水産高等学校の「マグロ延縄漁業実習」を応援する「マグロ延縄漁業実習応援プロジェクト」を立ち上げた。令和元(2019)年度は、「八戸水産高等学校マグロ延縄漁業実習成果報告会」を開催し、150人が参加した。

【資料 A-2-24】地域連携研究センター「八戸水産高等学校マグロ延縄漁業実習成果報告会」  
(2019年12月8日)

<https://research.hachinohe-u.ac.jp/news/event/post-3067/>

##### 2. はちのへFBA(はちのへフューチャービルドアカデミー)

地域連携研究センターでは、令和元(2019)年度から主催している各種講座や講習、セミナーなどの情報を市民へ周知することと、それに伴う受講者数の増加を目的に、情報を集約した専用のWEBサイト「はちのへフューチャービルドアカデミー (FBA)」を開設した。

中高生、20代向けの導入クラスでは、参加者同士が交流しながら地域について知ったり考えたりするプログラムと、八戸エリアをWEB上で体験的に楽しむことができるプログラムを実施した。基礎クラスでは地域経営力強化、防災力強化、国際力強化という三つのテーマでセミナーや資格取得講座を実施した。各種セミナーに学生・地域住民など延べ336人が参加した。

【資料 A-2-25】はちのへ市民チャレンジ応援補助金交付決定通知書

【資料 A-2-26】市制施行90周年記念事業はちのへ市民チャレンジ応援補助金 はちのへ地域創造人材育成事業実施報告書

##### (3) A-2の改善・向上方策（将来計画）

本学および地域連携研究センターの教育・研究・地域貢献活動をホームページ・SNS等で積極的かつ継続的に発信し、地域住民からの本学および地域連携研究センターに対する理解向上を図り、諸事業の参加者の増加を目指す。加えて、連携協力協定を締結している諸団体に対する積極的な情報発信も継続的に行う。

また、地域連携推進のために、地域連携に係る総合的な推進方策（体制整備、生涯学習、地域交流、人材育成、共同研究等）に関する将来目標と具体化のための目標・計画の策定・立案を行う。

### 【基準Aの自己評価】

地域連携研究センターは多様な専門性と人的・物的資源を活用して、連携協定を締結し、積極的な地域貢献を行い、地域をキャンパスとした教育活動を展開してきた。

現在は、本学および地域連携研究センターが8社の地域企業等と連携協力協定を締結し、様々な地域貢献活動を行っている。これらの協定により、教育・地域貢献活動に資する環境整備が進んでいる。

また、大学は地域の高等教育機関や自治体等と連携協力協定を結び、地域の活性化を図ることを目的とした事業を行ってきた。令和元(2019)年度には、産学官の各機関が地域の現状や課題を共有し、将来ビジョンを掲げ、その実現に向けて連携して取り組むために「産学官連携による未来創造中長期計画」を策定した。引き続き、産学官連携の一層の進展に向けて、中長期計画を着実に実施していく。

本学では、地域経済・文化等に密着し、地域をキャンパスとした教育活動を展開し、地域住民・教育機関・自治体と連携したフィールドワーク・公開講座等を実施している。これをとおして、地域社会の発展に寄与することができる行動力とコミュニケーション能力を身につけた人材の育成を行っている。

特に八戸市との連携ではジュニアサッカー教室やタグラグビー教室などスポーツを通じた活動やeコマース人材育成事業で人材育成に寄与している。教育活動では、課外活動として、スポーツ教室の運営を学生が主体的に取り組んでおり、スポーツマネジメント人材の育成を行っている。健康医療学部では、学生が主体となって健康調査を行い、住民などの健康・体力づくり策定の基礎資料を作成し、各自治体や企業に提供している。さらに、企業に対しては健康セミナーや健康度測定を行い、従業員への健康管理に関する活動等を実施している。

国際交流をとおして行う地域貢献・教育活動により、市民に異文化理解を深める機会を提供した。また、八戸水産高校マグロ延縄実習応援プロジェクトにより、地域産業の後継者養成に尽力した。

本学および地域連携研究センターは、教育・研究・地域貢献活動を積極的かつ継続的にを行い、地域住民および連携協力協定を締結している諸団体の理解向上を図っている。